

現場・市民 目線で市政チェック。 「いいね！」あふれる大和に。

令和3年秋号

vol.027

9月定例会の報告

おだひろし 大和市議会議員 元産経新聞記者

小田博士の 市政かわら版



行政サービスの本質変革 「デジタル化さらに加速を」

大和市議会9月定例会の一般質問では、デジタル庁発足を受けてデジタル化の進捗状況を質しました。

大木哲市長は「市民に利便性を実感していただく環境整備が重要だ。積極的に取り組む」と表明。がん検診の申し込みなど約60の手続きをオンライン化していることを明らかにしました。



市はマイナンバーカードのウェブ予約を7月に開始。押印が必要だった1100件の行政手続のうち市県民税申告書など650件の押印を廃止しました。行政の文書主義の改革が始まっています。

私は市ホームページへのチャットボット（自動対話）の導入も含め、デジタル化を加速するよう求めました。 **=裏面に続く**

Q&A

一般質問(2021.9.17)から

【ひきこもり支援】

Q. 本市の取り組みは？

A. 専任職員としてコーディネーターを配置し、支援窓口を開設した。こもりびと本人が社会参加などについて話し合う場としてこもりびとの集い、家族の集いを開催してきた。今後も積極的に取り組みたい。

Q. 支援窓口への相談状況は？

A. 令和2年度は新規相談者が78人、のべ相談件数が539件となっている。

Q. コロナ禍の影響は？

A. 家族が在宅ワークとなり、こもりびと本人の緊張が高まったり、外出機会の減少で気持ちが落ち込んでしまったりしたという相談があり、コーディネーターがリラックス法などをアドバイスしている。

【自殺対策】

Q. コロナ禍における人間関係の希薄化と自殺対策は？

A. 外出自粛や交流の抑制は人々の気持ちを抑圧する。誰かに悩みを話すことは気持ちの整理、自殺の防止のきっかけになることから、自殺防止相談電話を設け、大手検索サイトで検索した場合に相談窓

口を表示するリスティング広告を実施している。一人でも多くの人に関心を持ち身近な人に目を配ることが重要である。

【訴訟事務の適正性】

Q. 市の顧問弁護士が市長の私的な裁判の代理人を引き受けたが？

A. 本市の顧問弁護士は行政の法律上の課題を相談するために委託しており、あくまで使用者側に助言する立場だ。職員の個人的な相談は受けない。市長の代理人になったことで、被用者である職員との間で利益相反や双方代理の問題が起こることはない。

デジタル化 意識変革や働き方改革にも

[表面から続く]

行政のデジタル化が進み、自治体がデジタル・ガバメント（電子政府）に変わっていけば、単純作業が自動化されます。公務員の働き方も変わります。「AI（人工知能）によって仕事が奪われる」と後ろ向きに捉えるより「単純作業をしなくてよくなった分、クリエイティブで人間らしい業務に時間を使うことになる」と前向きに捉えたほうが建設的です。

テレワークが進めば「上司と部下」というタテ社会の関係が希薄化し、フラットな組織に変化していくでしょう。官僚制機構自体を変革させるきっかけになるかもしれません。

デジタル化を進めることは物事の本質を問う作業でもあります。たとえば、市議会をデジタル化して押しボタンにするとします。その過程では「議員が賛否を示すのに起立する必要はあるのか。そもそも議決とは何か？」といった議論を伴います。デジタル化の仕分け作業自体が意識改革につながります。

単なるIT化ではなく、社会を変革して豊かにするDX（デジタル・トランスフォーメーション）を進めていくべきだと考えます。

■デジタル・ガバメント実行計画

(2020年12月25日閣議決定)

「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」

デジタル化3原則

- (1) デジタルファースト
- (2) ワンスオンリー

同じ情報の再提出は不要

- (3) コネクテッド・ワンストップ

複数の手続・サービスがどこからでも1カ所で実現する

■自治体DX推進計画 (2021年1月～2026年3月)

【重点取組事項】

- ①自治体の情報システムの標準化・共通化
- ②マイナンバーカードの普及促進
- ③自治体の行政手続のオンライン化
- ④自治体のAI・RPAの利用推進
- ⑤テレワークの推進
- ⑥セキュリティ対策の徹底

【あわせて取り組むべき事項】

- ①地域社会のデジタル化
- ②デジタルデバйд対策

【その他】

- ①BPRの取組みの徹底(書面・押印・対面の見直し)
- ②オープンデータの推進
- ③官民データ活用推進計画策定の推進



大学生の夏休み期間 インターン受け入れ

この8月と9月、インターンの大学生3人を受け入れました。NPO法人「ドットジェイピー」の要請に応じたもので、



今春に次いで2回目です。学生さんには簡単な事務作業、市政報告のポスティング、支持者回りの

随行、朝昼の街頭活動といった政治活動を経験してもらいました。

大和市議会の傍聴、一般質問に対する政策提案や市内公共施設の見学、大和駅周辺の早朝清掃も行いました。

地元エリアから足を延

ばし国会や自民党本部を視察。甘利明代議士とも懇談しました=写真。

若年層の投票率向上は、地方議会でも大きな課題です。政治に関心を持っていただくきっかけとなったとすれば望外の喜びです。

◆プロフィール

大和市議会議員(2期目)

昭和50年1月生まれ

大和市出身/福田在住

西鶴間小学校、南林間中学校

中央大学附属高校、上智大学経済学部卒

早稲田大学大学院政治学研究科修了

(公共経営修士、専門職)

◆産経新聞記者(16年間)当時の職歴

整理部→千葉総局→社会部→政治部

◆資格・特技 防災士、居合道3段

【12月議会】

大和市議会の令和3年12月第4回定例会は11月25日から12月21日まで27日間の日程で開催される予定です。一般質問は12月14～16日です。どなたでも傍聴できます。気軽にお越し下さい。

◆市議としての役職(令和3年5月～)

厚生常任委員会委員

広報委員会委員

交通安全対策協議会委員、社会福祉審議会委員

◆その他の主な活動

自民党大和市連合支部

政調会長、広報局長

自民党神奈川県連

市町村議員協議会幹事

大和中央シティライオンズクラブ

隊友会、金毘羅神社神輿会

HPIはこちらから↓



大和市議 小田博士 〒242-0024 大和市福田5690-1-601

小田博士 検索

(TEL) 046-206-5567 (FAX) 046-206-4288 (MAIL) h-oda@nifty.com

このレポートは政務活動費を使用していません。

